



式辞を述べる川端局長

はじめに、川端省三局長が「皆さまのこれまでの努力と苦労に敬意と感謝の意を表し、心からお祝い申し上げます。今後も健康に留意し、それぞれの部署の中枢として、これまでの経験と知識をさらに發揮され、一層活躍頂くよう期待する」と式辞を述べたあと熊本南部森林管理署石神智生技官に農林水産大臣表彰状を伝達しました。

その後、林野庁長官の祝辞を森協和正総務企画部長が代読。続いて全国林野関連労働組合中

6月24日局大会議室において平成26年度林野庁職員定期表彰式が開かれ、勤続30年26人・同じく20年16人に農林水産大臣表彰状の伝達式が行われ、式典には、永年勤続30年受賞者及び局幹部出席のもと執り行われました。

平成26年度  
林野庁職員定期表彰式を開催  
勤続30年26人・20年16人を農林水産大臣表彰



受賞者を代表して川端局長から農林水産大臣表彰状の伝達を受ける熊本南部署石神技官

央執行委員長からのメッセージを披露。

最後に、技術普及課の松永眞弥を糧に国民の財産である豊かな森林を未来に引き継ぐため、森林林業の知見を更に深め、型にはまらない独創的な発想を持ち自分の世界を切り開く覚悟を持って更に全力を傾けて行くこ

農林水産大臣賞(勤続30年)

とを誓う」と受賞者を代表して謝辞を述べ、式典を終わりました。

- 森協和正(総務企画部長)
- 石橋暢生(森林整備部)
- 松永善人(計画課)
- 渡邊昭伍(計画課)
- 下大迫伸一(保全課)
- 濱田秀一郎(技術普及課)
- 松永眞弥(技術普及課)
- 東 敬介(森林技術・支援センタ―)
- 荒木逸郎(長崎署)
- 宮本一郎(長崎署)
- 石神智生(熊本南部署)
- 白濱正明(熊本南部署)
- 木村 真(熊本南部署)
- 山崎 泉(大分署)
- 坂本雄二(大分署)
- 川原 博(大分署)
- 岩上 勇(宮崎北部署)
- 高津忠孝(西都児湯署)
- 川畑充郎(都城支署)
- 小川義則(宮崎南部署)
- 菅 和光(宮崎南部署)
- 松元正三郎(北薩署)
- 友栗 誠(鹿児島署)
- 阿南達也(屋久島署)
- 岡本一孝(沖繩署)

農林水産大臣賞(勤続20年)

- 三吉康治(沖繩署)
  - 木村嘉彦(企画調整課)
  - 古澤寿光(経理課)
  - 近藤昌幸(計画課)
  - 阿部一元(森林整備課)
  - 猪島真由美(熊本署)
  - 廣田俊之(大分西部)
  - 城下ヒトミ(大分署)
  - 後藤彰彦(宮崎北部)
  - 川野幸三(西都児湯署)
  - 河合さつき(宮崎署)
  - 水野美香(宮崎署)
  - 竹下清高(都城支署)
  - 高木一将(都城支署)
  - 松本慎剛(宮崎南部署)
  - 宮崎隆太(大隅署)
  - 本田師久(沖繩署)
- (担当)総務課



受賞者を代表して謝辞を述べる技術普及課松永技官



大分西部森林管理署

玖珠森林事務所

首席森林官 古城 義夫

大分西部森林管理署南東部に位置する火山性の山「涌蓋山（わいたさん）」を紹介いたします。

涌蓋山は、大分県玖珠郡九重町と熊本県阿蘇郡小国町にまた



端正な姿をなす涌蓋山の眺望



八丁原地熱発電所の全貌

# 山容秀麗な名山 「涌蓋山」1499・5㍎

がり九重連山の北西にやや離れて位置する独立峰で、標高は1499・5㍎で頂上はわずかに大分県側に属しています。

その山容が秀麗で均整のとれた円錐形の美しい形をしていることから、大分県側からは玖珠富士、熊本県側からは小国富士

と呼ばれ、日本三百名山に数えられています。山頂は平らで草原となっており、玖珠側を向いた祠と、小国側を向いた祠が鎮座しています。標高は九重連山の山群より低いものの周囲に遮るものがないため、山頂からは

360度見晴らすことが出来、北から英彦山・由布鶴見岳・九重連山・南に祖母山・阿蘇山・西に雲仙岳まで見渡すことができます。

周辺は日本有数の地熱地帯であり、九州電力大岳発電所、八丁原発電所といった地熱発電所があります。また、

九重九湯（宝泉寺温泉・壁湯温泉・川底温泉・湯坪温泉・筋湯温泉・龍淵温泉・笠ノ口温泉・寒の地獄・長者原

温泉）といった多数の温泉が湧いています。

登山ルートは、なだらかで明確なことから初・中級者向けの登山コースとなっております。ひぜん湯（筋湯）ルート・湯坪ルート・八丁原〜一目山ルート・岳の湯くげの湯ルートの2時間〜3時間程度のルートが整備されています。

民話では、背比べで負けた万年山（はねやま）標高1140㍎が腹を立ててこの山を跳ね飛ばし、この場所に湧いたように山が出来たので、涌蓋山となったと伝えられています。



山頂付近のドウダンツツジ



山頂付近のタニウツギ

## 平成新山防災視察登山へ参加

【長崎森林管理署】雲仙普賢

岳警戒区域設定などに関わる防災業務の一環として、島原市と九州大学地震火山観測センターの共催による平成新山防災視察登山が行われました。今回で18回目を迎え消防や自衛隊など総勢80人が参加。当署から7人の職員が参加。前回は積雪と濃霧のため溶岩ドームの視察は断念しましたが今回は天候に恵まれ、警戒区域内の溶岩ドームの現状を調査することができました。現場は溶岩が折り重なる足場の悪い箇所でしたが事故やけが人もなく、行政や報道機関が防災に対する認識を共有し無事に防災視察登山を終えることができました。



溶岩ドームの調査をする一行＝長崎

# 「地域の宝」白髪岳

白髪岳山頂及びその周辺約150畝は、昭和55年3月に自然環境保全法に基づき全国でも数少ない自然環境保全地域に指定されました。指定理由として、この地域が「九州地方では数少ない自然性の高い天然林が残された地域で有り、しかも大半を占めるブナ林は我が国の南限に近く、貴重な存在



## 白髪岳登山道を整備

【熊本南部森林管理署】当署



案内板の設置をする参加者＝熊本南部

と合同で白髪岳登山道整備を行いました。整備には同会員と当署職員約20人が参加。当日は天候にも恵まれ、新緑の中、登山道周辺のゴミ拾いや樹名板・案内板の設置、歩道上の倒木除去、シカ柵の補修など頂上までの歩道整備を行いました。協定締結後初めての合同による活動であり、今後も連携を図りながら白髪岳の貴重な自然と、登山者の安全を守る活動を継続していくことを確認し無事終了しました。



白髪岳を守る山の会  
事務局長

藪田 富七さん

である」。ためとされています。白髪岳を守る山の会は、白髪岳の環境保全や環境整備を目的に平成4年6月に設立しました。会員は現在23人ですが、年間を

登山依頼者案内など、年間を通して活動をしております。近年、地球温暖化や大気汚染、台風被害、シカの食害などで白髪岳の草木の被害が深刻な状態に有り、

## JICA海外研修を受入

【長崎森林管理署】6月16日

独立行政法人国際協力機構（JICA）が行う研修「中華人民共和国四川省・震災後森林植生復旧計画プロジェクト日本研修（治山計画）」の研修生6人を受け入れ、島原市眉山地区などにおける治山事業の概要を説明しました。特に雲仙普賢岳における航空緑化工には、母国における森林施業の実情もあつてか深く興味を持たれ、熱心に説明を聞かれておりました。このよ

うな国有林の取り組みが帰国後通して台風や雪害による登山道の倒木や支障木の除去、清掃活動、頂上への道標及び標柱設置、樹木名版の設置などのほか、白髪岳登山を通じた小中学生への環境教育、団体登山者の案内、

また、登山者に安全で安心な山として整備も怠ることなく進めて行きたいと思えます。今後ともご指導、ご協力よろしくお願いいたします。

の「復旧計画プロジェクト」に少しでも役立られることを切に願っております。



署員から説明を受ける一行＝長崎

## 森林・林業情報交換会を開催



現地にて意見交換をする参加者＝北薩

【北薩森林管理署】鹿児島

県北薩地域振興局、さつま町など関係市町や当署職員約30人が参加して北薩地域森林・林業情報交換会を開きました。国有林と国有林が連携して地域の森林・林業再生を図る目的で、昨年から持ち回りで開いており、今回は、さつま町野平国有林の間伐展示林において、平成17年に設定された列状、定性間伐の成育状況を比較検討し意見交換を行いました。国有林の列状間伐普及への課題、効率的な間伐方法及び多くの意見が出され意義ある情報交換となりました。今後各地域の林分、林地状況にに応じた作業方法が検討され、更なる間伐の推進が期待されます。

## 自然保護活動で環境大臣表彰



受賞された樋ノ口さん＝都城支署

【都城支署】当支署西小森林事務所非常勤職員の樋ノ口正光さんが霧島錦江湾国立公園内

この季節になると朝3時頃からホトトギスがさえずります。また熊本県大津町の麦畑の麦秋も一面見事で、広大な畑の周りには雑木林が連なり萌黄色の緑と麦のコントラストが最高です。



秋吉 太平さん

私の子供の頃には、杉の肥培コンクールがあり林野庁長官賞を受賞したことから全国各地から連日のように視察がやってきました。

また昭和46年には林野庁に先

がけ緑のオーナー制度を企画実行に移しました。時はバブル期で全国各地から多くの人が緑を

において、遭難事故の捜索救助活動、自然の解説、美化清掃に取り組み自然保護思想の普及啓発・事故防止などに尽力された長年にわたる功績に対し、5月に開かれた南アルプス国立公園指定50周年記念式典で、自然公園関係功労者として環境大臣表彰を受賞されました。今回の受賞は、環境省自然公園指導員として30年間にわたり大幡山などを中心に地道な活動を続けてこられた結果であり、樋ノ口さんは今後も霧島山系の自然保護活動に意欲を燃やされています。

## 船浦中の浦内川筏下りを支援

私の家は農林業を営み、四代前の曾祖父の時代から毎年米や牛馬の子を売って少しずつ貯金をして土地を買い、杉苗を植えたり挿木したり、また一方では密植して3ヶ位まで成長した木を移植（はちこぎ）造林して100杉足らずの林家です。

私の子供の頃には、杉の肥培コンクールがあり林野庁長官賞を受賞したことから全国各地から連日のように視察がやってきました。

また昭和46年には林野庁に先

がけ緑のオーナー制度を企画実行に移しました。時はバブル期で全国各地から多くの人が緑を

## 【西表森林生態系保全センター】

竹富町立船浦中学校三大行事の浦内川筏下りが行われ、森林環境教育の一環として職員3人が参加しました。参加者は、生徒35人と教職員ら合わせて60人で結団式を行った後、浦内川上流の軍艦岩まで観光船で移動。生徒と教職員は4艇の手作り筏に分乗、その他の支援者は船やカヌーに乗り筏下りをスタートしました。ゆっくりと下りながら観光船とすれ違うときには手を振ったり途中のチェックポイントでは、珍しいものを探したり、また、琉球大学の先生からマンガロプの構成種であるヒルギ



自慢の手作り筏で川下り＝西表センター

の葉や根の違いについて講義を受け、西表島のマンガロプ林が日本で最大の広がりであることなどを知り、大切にしていきたい

## 「田舎で育てて」

求めてやって来ました。その面積は30畝で10年間下刈をやった後、数回の除伐を行い現在に至っています。この杉山運動はさまざまな多くの人の出会いや植林体験の場となっています。私は趣味も沢山あり、地元

農道空港を作りたいと思い、熊本空港にてセスナで130時間練習を行いました。その当時は中止となってしまいました。

また、文芸で肥後狂句や俳句、童話やマンガでも入選経験があり、NHKニュースではヘッド

ライオンニュースで世界中に流れました。写真ではグランプリになり、東京の一流ホテルで合同祝賀会をやって頂きました。さまざまな植林体験プラス趣味が合体して、さらなるアイデアを生み出すパワーが満ち溢れています。

このように、さまざまな体験から生まれたアイデアを、林野庁の行政に生かすことができることを幸いに思っています。

最後に、私の次の夢はドラマ作りです。屋久島で森林官をさせていたナスさんの実話です。（熊本県小国町在住）

## 森林整備運営会議を開催

【長崎森林管理署】6月23日、対馬流域森林整備推進協定運営会議が対馬市役所で開かれ、協定メンバーの長崎県対馬振興局、対馬市、長崎県林業公社、対馬森林組合、当署が参加しました。協定の目的を改めて確認し、今後の国有林と民有林の双方で持続的且つ効率的な森林整備を図れるか検討を行いました。午後からは現地で検討会と意見交換を行いました。今後、協定の更

新年度を迎え、これからの良い森林整備が行えるよう、なお一層民・国連携して進めていくことを確認しました。



現地で意見交換を行う参加者＝長崎

# 第2回 国際照葉樹林サミット in 屋久島



第2回照葉樹林サミットが開かれる

6月7日、鹿児島県屋久島町宮之浦の屋久島離島開発総合センターにおいて、「第2回国際照葉樹林サミット in 屋久島」が当実行委員会主催（後援：林野庁九州森林管理局）により、「照葉樹林の理解を深め、その保護と賢明な利用に関する各地の取り組みの情報交換や交流を通じて持続可能な自然と人と文化の未来を展望し、地域づくりにつなげる機会とする」目的で、関係省庁、地方公共団体、有識者、民間団体、地元住民などが参加し開かれました。



来賓挨拶を述べる川端局長

の荒木耕治屋久島町長の開会あいさつの後、来賓あいさつにおいて川端省三九州森林管理局局長は、「照葉樹林の素晴らしさや次世代に引き継ぐ重要性を多くの皆さまと共有するとともに、生物多様性の保全や森林を活かした地域づくりの取り組みを皆さまと進めて参りたい」とあいさつしました。

その後、基調講演①湯本貴和京都大学教授など、②テーマセッション1・2、全体討議が行われ、最後に屋久島・口永良部島ユネスコエコパーク再登録への取り組みを含めた「第2回国際照葉樹林サミット宣言」を採択し閉会しました。

なお、平成26年5月25日には、

プレイベントとして4月に設定されたヤクタネゴウ植物群落保護林である屋久島町西部の瀬切川左岸流域の国有林において、町民17人及び屋久島森林生態系保全センター職員らが参加し現地見学会が開かれました。

（担当：計画課）

## 民間を含め採材検討会を開催

【都城支署】6月11日、長尾国有林で需要者ニーズに応じた採材を行い素材の生産販売事業を円滑に進めることを目的に、約80人が参加し採材検討会を開きました。当日は、本年度のシステム販売から民有林材の販売を行う（株）総合農林や宮崎県北諸県・西諸県農林振興局など民有林関係者も参加し原木受入の規格内容や要望事項の説明を



原木を前に採材の検討を行う＝都城支署

## 安全大会で農林水産大臣賞を伝達 ～森林軌動車の救援活動が認められ～

【屋久島森林管理署】当署では、7月1日から実施される国家公務員安全週間の一環として、7月2日に平成26年度屋久島森林管理署安全大会を行いました。始めに全職員で殉職者への黙祷を行った後、安全標語優秀作品表彰、職員の無災害記録表彰、安全講習を行い、最後に大会宣言とタッチアンドコールで安全意識を再確認。今後も参加者全員で無災害が継続できるように気持ちを新たにしました。

また、「モーターカーによる救援活動」が平成26年度優良職員等表彰として農林水産大臣賞を受賞し、この伝達式を大会行事に併せて行いました。

この賞は、登山者らが負傷した場合に消防署からの依頼を受けた際に、屋久島署で所有し管理している「モーターカー（森林軌道車）」を出動させ、登山者らの救援に当たったもので、平



救援活動に力を発揮するモーターカー

日、休日を問わず永年にわたり地域の安全活動に貢献したことが高く評価されたものです。

伝達式は署長から、今年、救援活動した職員の代表に表彰状と楯が伝達されました。

屋久島森林管理署で永年にわたってきた活動が認められ、現職員のみならず今日まで屋久島森林管理署に勤務された職員の苦勞が報われた伝達式となりました。

受け、その後スギ、ヒノキ毎に関係事業者が採材を行い、その結果について意見交換を行いました。参加者から活発な意見や質問が出され、商品である素材を3者が共通認識のもとに採材していくことや緊密に連絡・調整を行っていくことが確認でき有意義な採材検討会となりました。

# 平成26年度第1回 国有林材供給調整検討委員会を開催

5月29日に本年度第一回目の

「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。当委員会は、木材の需給動向にに応じて、国有林材の供給調整の必要性などを検討する委員会です。検討委員は全員前年度に引き続き再任を行いました。年末の丸太価格の上昇から一転し、年度末から年度当初にかけて価格が低下している中で、各委員がそれぞれの専門分野からの意見を述べあい、その結果、「現時点で国有林材の供給調整を行うことは要しない。」との結論となりました。



冒頭あいさつをする委員長の遠藤教授

委員からは、「バイオマスの

需要や、輸出入量の増加のことを考えれば出材量を増やさなければいけないが、虫害に注意する必要がある。ノ丸太の市況はB、C材需要の下支えがある。ノヒノキとスギの供給のバランスを考える必要がある。ノ国産チップの供給が不安定で、C材は不足しており、供給量の安定が必要である。ノ製品は4月に入って売れ行きが悪く、価格も下がっている。ノ3年くらい国産材を使ってもらえば、外材には戻りにくい。ここ3年が重要な時期である。ノ合板は、昨年度の後半はずっと原木不足で大変だったが、今は落ち着いている。ノ安定供給が必要であり、そのための素材生産事業者の人材育成が急務である」などの意見が出されました。

(注ノ委員会概要は局ホームページに掲載)

(担当ノ地域木材情報分析官)

## 「誘導伐等」研修会を開催

【熊本南部森林管理署】当署

管内において、誘導伐実施箇所  
の検証・検討及びシカによる剥



現地検証をする参加者＝熊本南部

皮被害防止対策などの研修会を開きました。今回の研修は民国連携の一環として、球磨地域振興局に参加を呼びかけ当署職員ら約40人が参加。研修会では、

誘導伐実施の考え方や伐区設定方法、伐採造林一貫作業システム、シカネット設置方法などについて説明。その後、誘導伐実施箇所の現地での伐区の設定や路網の配置、シカ対策方法実施状況などの検証・検討を行いました。意見交換会では伐区の設定方法や、施業コストなどについて活発な意見が出され、今後の民国連携の施業実施に向け貴重な研修会となりました。

## 地域森林整備推進協議会を開く

【大隅森林管理署】内之浦地

域森林整備推進協議会が開か



運営会議へ参加した関係者＝大隅

開かれ、山林譲渡に伴う、協定の承継承認や25年度の実績報告及び26年度事業の確認、安定供給システムの現状、今後主伐期に移行することに伴う諸問題について情報交換を行いました。また、鹿児島県大隅地域振興局から、「多様で健全な森林づくり」と「木材供給基地がこしま

の実現に向け、県全体で平成32年度までに年間100万立方の木材生産体制を整備するための総合戦略説明があり、当署からは九州森林管理局平成26年度重点取組事項の説明を行い最後に各協定者が連携し協力することを確認し会議を終了しました。

## ゼロ災を目指し高安会に参加

【都城支署】当支署管内の登

録林業事業体の第8回合同安全

大会が関係者約120人が参加し開かれ、当支署から川畑充郎支署長と鎌田敏雄企画官が出席。鎌田企画官から平成25年度の国有林野請負事業の災害発生状況、都城労働基準監督署田子山利博課長より宮崎県内の林業災害状況や木材伐出機械関係等の労働安全衛生規則の一部改正、林業防宮崎県支部の山ノ上洋征安全指導専門員から林業死亡労働災害多発警報について、それぞれ指導があり、最後に、大会安全宣言が採択され、宮崎県内で昨年からの死亡災害が連続発生し、林業死亡労働災害多発警報が発令されており、本年度のゼロ災と死亡災害の絶滅を全員で誓いました。



大会の開催状況ノ都城支署

# 平成26年度安全週間行事の一環 「交通法令講習」と 「車両点検説明」を開催

安全週間中の行事として、7月3日、局職員を対象に「交通法令講習」と「車両点検説明」を開催しました。熊本北警察署杉山和義交通第一課長を講師に招いた交通法令講習には職員約80人が参加しました。講師から今年の交通事故の状況や、飲酒運転事故防止のため運転するときは前日の飲酒を控えることなど、事故の事例やDVDによる講話がありました。受講した職員は、講師の「事故は一瞬、一秒で人生は変わってしまう」との話しに熱心に聞き入っていました。今回の講習を機に、職員



講師の熊本北警察署杉山交通第一課長



整備士から点検の要領を学ぶ

は「飲酒運転は絶対にしない・させない・許さない」「交通事故は絶対に起こさない」との決意を新たにしたいと思えます。午後からの、車両整備契約相手の整備工場から講師を招いた「車両点検説明」には、職員約25人が参加しました。車に乗る際の日常点検では、①ボンネットを開けて②車の周りを回りながら③運転席に座って行う点検方法と、専門家ならではのチェックポイントについて説明を受けた後、グループに分かれて庁用車の点検を行いました。参加し

た職員は、各点検項目をお互いに確認しながら、ブレーキオイルの液量やライトの点検など真剣に行っていました。

今回の法令講習及び車両点検説明を受講し、一人ひとりが、交通事故を起こせば、自身だけではなく家族や職場にも大きな痛手となることを自覚し、交通事故ゼロに向けた取り組みに気持ちを新たにしました。

(担当 川総務課)

## 民間を含め採材検討会を開催

【熊本南部森林管理署】多良木町の熊本木材市場上球磨支店において、素材生産請負事業体

やシステム販売協定者、熊本県球磨地域振興局、当署職員など約70人が参加し「採材検討会」を開きました。検討会は国有林素材生産者と需要者が採材について認識を共有する目的で毎年開かれ、始めに採材・造材について担当者からの説明の後、参加者を3班に編成しスギ・ヒノキ丸太の径級や長級、矢高などを計測し計測結果の報告に基づき採材の妥当性や品質区分について検討と知識や技術の研鑽を行いました。意見交換では参加者から丸太の選別・仕訳の利用範囲について意見が出されるなど、今後の採材技術の向上に資する

ルは幻想的でこれまでに見たことのない景色だった。川の流れるようにゆったりとした時間を過ごすことができ、また、同時に関係する方々のホタルや川辺の景観に対する愛情も感じられた一日だった。



水田に植えられた苗が、初夏の風に吹かれてなほ季節となってきた。

## おじゃこたもんせさつま町へ

この4月に転勤となり、鹿児島県さつま町の住民となったが、自然豊かな町である。ところで、さつま町にきて感動したことが二つ。一つは、ゲンジボタル。5月下旬の夕方、川内川中流域を棹さし舟で川下りする機会を得たが、兩岸に飛び交う沢山のホタル

二つ目は、温泉。さつま町のパンフレットにも「自然と文化と温泉のまち」とのキャッチフレーズが載っている。正確な温泉数は知らないが、タオル、石鹸持参で100円〜250円程

その際には、必携品であるタオルと石鹸を忘れないことはいままでもない。(北薩森林管理署長 佐賀 賢二)



丸太を計り採材について検討する参加者 川熊本南部

有意義な検討会となりました。

# 人のうごき

◇定員内職員◇

7月1日付森林管理局長発令

大隅署地域技術官

濱本敬士(大隅署)

屋久島署地域技術官

村上英志(屋久島署)

◇退職◇

3月31日付森林管理局長発令

柏木光裕(鹿児島署)

(担当川総務課)

## 「森のセミナー」を開催

【熊本南部森林管理署】当署会議室において本年度第一回「森のセミナー」を開き、約20人が受講しました。講師の環境省希少野生動植物種保存推進員



乙益先生の説明を聞く参加者＝熊本南部

の乙益正隆氏から、スライドを使いながら球磨人吉地方で見られる植物の呼び名や特徴、葉草としての効能などについてユーモアを交えた説明と、次に人吉球磨地域の固有種でシダの一種ナンピイノデを胞子から培養する方法について説明を受けました。これには、シカの食害で激減しているナンピイノデを、家庭で栽培し成長させ山へ戻すこととし、激減した植生を再生するための市民参加型取り組みを体験して頂く事を目的としてい



日本の固有種で中部以南の山地に生える雌雄同株の常緑針葉高木です。九州では標高1300m以上の国見岳、韓国岳、高隈山などで観察できます。

葉は線形、少し内に曲がり四角四面に気候帯があり、先はいずれも鋭く尖っています。葉質は非常に硬く深緑色、その断面ははつきりした菱形をしており、若い枝は黄褐色で光沢がありません。

以前に大浪の池から韓国岳に登るとき初めて観察し、標本を採りましたが葉先が指に触れて

ます。参加者からは、「この貴重な体験を通じて、自然保護の大切さや重要性について再認識することが出来た」などの意見が聞かれました。

### 住所変更のお知らせ

沖繩森林管理署庁舎が移転しましたのでお知らせします。

新住所 〒900-0025

那覇市壺川(つばがわ)3丁目

2-6 壺川ビル3階

電話番号

代表 098-918-0210

## 81 ハリモミ(マツ科)

痛く、袋に入れても葉先が袋から飛び出し苦労したことを思い出します。

ハリモミの葉は樹木園の中央東側で目の高さで観察でき、指で触るとその鋭さが体験できます。樹形や葉の形状がモミ属に似ていますが、葉先が針のように尖っているためこの名があります。(ハリモミはトウヒ属、別名バラモミ)

公園樹、庭園樹、材は建築、器具、楽器、パルプ材などに利用され、材が柔らかいことからモミに比較して安い値段で取引されます。



FAX 098-918-0211  
移転日  
平成26年6月16日



梅雨真っ只中、今年は九州が少雨、関東などが多雨、異常？と思っていたが、先日、九州北部地方で局地的に、「五〇年に一度」と報じられるほどの猛烈な雨が降った▼やはり異常である。新聞によると、九州南部からの原木の輸出が急増しているそうである。国内トップの志布志港では、2013年の輸出量が前年の3倍となった▼これも異常か？林業界には朗報だが、供給力が追いつくか？国内の需要量とのバランスなど、新たな課題も浮上していると聞く▼「原木の需要増は歓迎できるが、次世代に森を残すには伐採後の植林や手入れが欠かせず、将来を見据えた受給調整が必要。」との意見もある▼現在、国有林は再生可能な林業を目指して、トータルコスト低減のための主伐・再造林の一環作業システムをはじめ、木材の受給動向に応じた供給調整、木質バイオマス発電を対象にしたシステム販売など新たな取り組みを行っている▼このような取り組みが当たり前に思われ、原木の輸出増が異常と思われない日が早く来ることを期待したい。(一)